時代を読み 活用する力育てる

第30回NIE全国大会・神戸

新聞を教育に生かす「NIE（Newspaper in Education）」の実践を共有する「第30回NIE全国大会」（日本新聞協会主催、神戸新聞社など主管）が7月31日～8月1日、神戸市内であった。教育、新聞関係者約1800人が、実践発表や公開授業を通じて知見を深め、交流した。島根県からはNIEに取り組む教員6人と山陰中央新報社のNIE担当が参加した。（清水由紀子）

NIE全国大会の公開授業で、記事を紹介し合う甲南小学校の児童たち＝神戸市東灘区、甲南大岡本キャンパス（松江市立中央小・能海麗美教諭撮影）

新聞から公正な情報得る

阪神大震災から30年に当たる神戸大会のテーマは「時代を読み解き、いのちを守るNIE」。1日目の全体会では、公正な情報を伝える新聞の役割やNIEが「メディアリテラシー（情報の真偽や価値を吟味し活用する力）」を育てる意義に焦点が当てられた。

大会実行委員長の竹内弘明氏（神戸親和大教授）は基調提案で、2024年の兵庫県知事選に触れ、インターネット上の虚偽情報が選挙結果を左右し、誹謗中傷が命を奪いうる現状を踏まえ「正確な情報を取捨選択し、活用する力を身に付けるために、新聞やNIE活動は有効」と述べた。

パネル討議では、神戸新聞社の長沼隆之論説副委員長が、7月の参院選で交流サイト（SNS）の情報などを検証、記事化した「ファクトチェック」の取り組みを紹介。「新聞の最大の武器は組織力と取材による事実の積み上げ。地元紙が事実確認のよりどころになりたい」と語った。

会場ロビーでは、神戸新聞社が阪神大震災を記録した写真が1995年1月17日の震災当日から1日ずつ、1年分展示され、来場者に当時の被災地の様子や歴史を記録する新聞の役割を伝えた。

2日目は分科会があり、兵庫県内の小中学校、高校、特別支援学校が公開授業や実践発表で多彩な取り組みを紹介。参加者と熱心な意見交換が行われた。

来年の全国大会は広島市で開催予定。

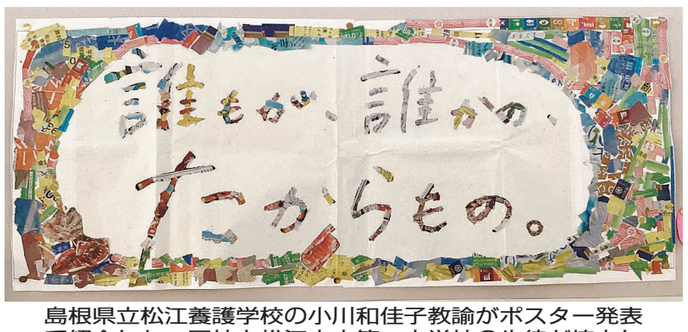
ポスター発表の会場で参加者と交流する大田市教委の八波直樹指導主事（左）＝神戸市東灘区、甲南大岡本キャンパス

新聞使った遊びで交流

島根の2校 ポスター展示で発表

大会2日目の8月1日、会場の甲南大岡本キャンパス（神戸市東灘区）であったポスター展示による発表には、北海道から沖縄まで71の学校や団体がパネルに掲示して取り組みを紹介した。島根県からは2人が参加し、全国の実践者と交流した。

島根県立松江養護学校の小川和佳子教諭は、地元公民館を会場に、近くの松江市立第二中学校の生徒と、紙面を何片かに切って組み合わせる「新聞パズル」や「ちぎり絵」など新聞を使った遊びを通して交流した実践を、図や写真を用いて説明。大田市教育委員会の八波直樹指導主事は、科学の本を読むことを通じて、理科への興味や探究心を育てる読書活動「理科読」に、関連の新聞記事を取り入れた取り組みを報告した。



島根県立松江養護学校の小川和佳子教諭がポスター発表で紹介した、同校と松江市立第二中学校の生徒が協力して作った新聞を使ったちぎり絵＝小川教諭提供

全国大会に参加して

松江市立中央小学校
能海 麗美教諭

昨年初めて大会に参加し、NIEの良さや他校の実践、はがき大の紙で作るミニ新聞「はがき新聞」などのすぐに使える教材を知り、自校での実践に多くのヒントを得ました。今年も新たなアイデアを得て、2学期以降に生かしたいと思い、参加しました。

神戸市の私立甲南小学校4年生による「シンブリオバトル」の授業が印象的でした。児童が自分の「推し記事」を紹介し、友達の発表に身を乗り出して聞き、質問を投げかける姿は生き生きとしていました。

さまざまな記事に触れることで児童に多様な視点や考え方が育まれ、プレゼンテーション力や対話力の向上にもつながると感じました。この実践は自分の授業でもぜひ取り入れたいと思います。学級で毎日の終礼時に取り組んでいる、気になる記事を紹介しあう「新聞スピーチ」にプラスすれば、さらに活動を発展させることができそうです。

大会を通じ、新聞を学習に生かす方法や切り口は本当に多様だと知りました。新聞はあくまでツールの一つ。活用することで子どもたちにどのような力を、どのように身に付けさせることができるのか。この視点を大切に、実践を続けたいと思います。

私立甲南小学校4年生のNIE

◇「シンブリオバトル」で主体的な学びを
～推し記事を紹介しあう～

シンブリオバトル（SB）は、児童が記事を紹介しあい、最も読みたい記事を投票で決める。伝えたいことを整理して発表するという目的意識、友人の発表への質問意欲、新聞そのものへの関心の高まりに有効。

＜3年生次＞
・児童自作の記事でSB
・こども新聞の記事でSB
・投票で選ばれた記事をテーマに討論
＜4年生＞
大阪・関西万博の大会テーマを題材にSB。新聞から情報収集、課題を設定、まとめと発表。

「推し記事」紹介 児童生き生き

ひとこと

面白い！の反応やりがい

全国大会やNIEセミナーで学び、面白そう、やってみたいと思った実践を自分の授業に取り入れています。まず自分で試してみて、他の先生にも紹介すると、「面白いね」「児童の力が伸びた！」などの反応があり、広めてよかったと感じます。はがき新聞はその一つです。NIEに関心のある先生、思い切って周囲の先生に声をかけて、一緒に始めてみませんか。

NIEアドバイザーのリポート

NIE全国大会には島根県からほかに、実践経験の豊富な、日本新聞協会認定のNIEアドバイザー4人の教員が参加しました。リポートは山陰中央新報デジタルに掲載しています。

島根県立松江養護学校中学部
小川和佳子教諭

NIEを始めて2年目、島根県外の特別支援学校の実践を知りたいと思い、初めて大会に参加しました。

兵庫県立のじぎく特別支援学校高等部の実践では、学年目標「新聞を活用して見る・聞く・知る・伝える力を身につけ、社会とつながる」に沿って段階的に課題を設定し、個人からグループ作業へ、学校内から地域社会へと取り組みを発展させていました。

読み書きが苦手な生徒が新聞記事を見て、この漢字は何と読むの」と尋ねてくるなど、NIEが「分からないことを調べたいという意欲につながった」という報告に、同じ校種の教員として共感しました。

兵庫県立のじぎく特別支援学校のNIE

◇「新聞を活用して見る・聞く・知る・伝える・社会とつながる」

＜1年目＞
（1）新聞を見よう（大阪万博などの好きなキャラクターの写真を見て興味を持つ）
（2）分からないことを聞こう（知らない漢字、ガザってどこ？）
（3）気になるニュースを伝えよう（切り抜き、選んだ理由も書く）
（4）新聞を作ろう（学校行事のたびに作成）

＜2年目＞
グループでの新聞作成、他校とのNIE交流で新たな人間関係づくり

校内から地域へ取り組み発展

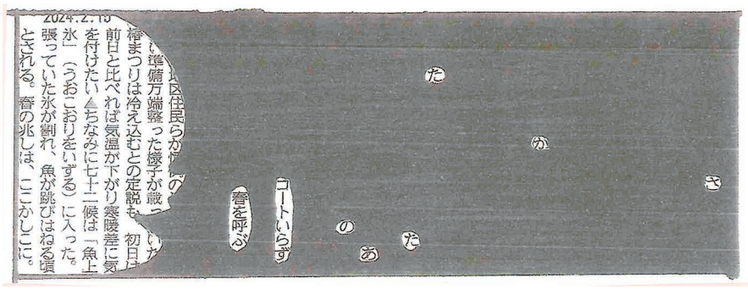
ひとこと

五感使ってつながる「紙」

新聞紙は、紙の柔らかさやちぎる時の感触、インクのにおいやカラー紙面の色鮮やかさなど、五感を使って作業ができる、年齢問わず扱いやすい素材です。本校の実践を通して、新聞という媒体は人と人をつなげ、仲間づくりや社会参加のツールとして有効だと感じています。

新聞記事を塗りつぶして俳句を作る姫路市立飾磨中部中学校の「クロヌリハイク」の実践は、語彙が少ない生徒でも取り組みやすく、アート作品として仕上げる楽しみもあり、自分の授業でも取り入れてみたいと思いました。

大会を通じ、これまでの自分の実践に自信を持つことができました。そして新聞を使ってできそうなことがまだまだあるぞ、とわくわくしました。



姫路市立飾磨中部中学校の生徒の「クロヌリハイク」の作品。「春を呼ぶ コートいらずのあたたかさ」

11月1日松江で秋季セミナー

「国語学習とNIE」がテーマ

NIEに取り組む教員でつくる「島根県NIE研究会」は11月1日午後1時半から、松江市殿町の山陰中央新報社本社3階大会議室で秋季セミナーを開きます。テーマは「国語学習とNIE」です。

セミナーはNIE活動の指導者育成や、活動の拡大を目的に年に3回開催。詳細は後日、各学校にご案内するほか、島根県NIE推進協議会のホームページにも掲載します。

問い合わせは、島根県NIE研究会・メール（nie.shimane@gmail.com）か、島根県NIE推進協議会事務局（山陰中央新報社内）電話0852（32）3414。

NIE推進協と研究会

30周年記念セミナー計画

島根県では2025年度、八つの学校が新聞を教育に活用する「NIEチャレンジ校（実践指定校）」として、新聞の無償提供を受けて日々、実践を重ねています。

日本新聞協会とともに事業を行っているのが、1995年7月に全国で9番目に設立された島根県NIE推進協議会です。県内に拠点を置く新聞、通信社9社と学校、教育行政の担当者らで構成されています。96年に設立された教員による自主研究組織「NIE研究会」との両輪で島根のNIEを進めています。

推進協は今年、研究会は来年30周年を迎えるのを機に、記念のセミナーなどを計画しています。

島根県NIE推進協議会ホームページ